

あなたが守る大切ないのち

—緊急時マニュアル—



「大変、救急車を呼ばなくちゃ！！」
身近な人に何か起きた場合、救急車を呼ばなくてはならないときが来るかもしれません。

また、「救急車さえ呼べば、もう安心」なのでしょうか？

そのとき、私たちにできることを考えてみませんか。



119番通報の正しいかけ方

日ごろどんなに用心していても、けがや事故、病気が突然起こります。誰かが苦しんでいる場面に出くわすかもしれません。

そんなときは、電話で119番通報し救急車を呼ばなくてはなりません。すべての119番通報は、札幌市消防局にある消防防災情報センターに入り、ただちに消防署または出張所に連絡され、20〜30秒以内に出勤することになります。

消防局では、みなさんから通報していただく内容について、左の4つのポイントを正確に聞くこととなります。

- ### 119番通報 4つのポイント
- ① 火事か救急かをはっきりと
 - ② 住所は、正しく・詳しく
 - ③ 何が（だれが）どうしたのかを正確に
 - ④ 通報者を明らかに（氏名、電話番号など）

この4つのポイントを基に、実際の通報の例を挙げてみるとうなります。

①「救急です。」
②「手稲区前田1条11丁目〇番〇号にある手稲ビルの北側の交差点です。」

③「トラックと乗用車の衝突で、男の人が一人けがをしています。右腕から出血しています。今、路肩で横になっています。」

④「私はこのビルの201号室に住んでいる手稲 山男です。電話番号は、〇〇〇の〇〇〇〇〇です。」

119番通報では、『早く知らせる』ことが重要です。しかし、目の前で人が倒れていると気が動転し、慌てることもあるかもしれません。いざというときに備えて、住所と救急隊が駆けつける時の目印をメモに書き、電話機のすぐそばに張っておくといいでしょ。



▲小学校での119番通報体験

救急車が来るまでに

手稲消防署では、救急車が出勤してから現場に到着するまでに平均6分弱かかります。呼吸や心臓が止まっていたり、多量の出血があるときに、救急車が来るのをただ待っているだけならば、尊い命を失うことになりかねません。

左の図は、「カーラーの救命曲線」といいます。心臓が止まってから、または呼吸が止まってから、何分くらい経つと命が助からなくなるか、その平均的な割合を示している曲線です。時間が経つにつれて死亡率が高くなるのがこの図から分かります。

